（郵便局認可）

（日曜日休刊）（定價金三錢）

時事新報

第二百五十七號

明治十九年四月廿三日　金曜日
舊丙戌三月二十日（癸丑）

日出午後六時十九分
日入午後六時二十八分
月出午後十一時四十五分
月入午前八時三十八分
潮汐午前八時三十分　午後八時十三分
（西暦一千八百八十六年）

時事新報定價

一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵便稅一箇月金廿六錢〇一箇年金三圓十二錢〇左ニ掲ル各地ニ於テハ該地賣捌所ヨリ發送無料ニテ配達致候（但本社ヨリ直接郵送スルモノハ此限ニアラズ）

東京、横濱、横須賀、從神奈川至小田原、熱海、七尾、大阪、京都、大津、神戸、尼ノ崎、姫路、岡山、笠岡、福山、廣島、宮島、高知、下ノ關、長崎、佐賀、久留米、福岡、博多、唐津、名古屋、敦賀、岡崎、豊橋、浜松、静岡、沼津、三島、小田原、八王子、千住、草加、越谷、春日部、宇都宮、高崎、鹿沼、八戸、秋田、新潟、佐渡、東金、市川、大網、船橋、其他同地近傍配達ノ國所ハ同シク賣捌不申受候

時事新報廣告料（前金）一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上	七日以上	十五日以上
自一行至十行	八錢	七錢	六錢	五錢
自十一行至三十行	七錢	六錢	五錢	四錢
三十一行以上	六錢五厘	五錢八厘	五錢	四錢五厘

時事新報

人を以て裝飾品と爲すは風習風俗變遷の歴史に於て尤飾い實用に先ざつものなりとい西洋學者は說く所にして野蠻未開の人種中にも其例特に多きが如し南亞米利加のオリノコ土人は野蠻の常習、曾て衣食の温飽に注意せざれども面に塗抹する紅粉と買ふが爲めにい其半箇月間の勞を費すを惜まず又其婦女は裸体徒跣にて生息すれども紅粉と施さゞして其廬を出づるとなしと云ふ亞弗利加の野蠻中には所謂文身の風習あり身に圖畫と刺繍するのみならず龜甲を以て面と飾り耳環と挾んで身体と毀傷するを常とし慓悍殘忍なる酋長に至りては髑髏抔を以て室内を飾り敵人の頭顱を串にして屋間の裝飾品と爲すものあり孰れも野蠻の陋習にして文化の進歩と共に消滅し或は漸く其形を變ずるが如くなれども半開の國には其陋習の少しく變形にて世に流傳するもの少なからず古今東洋諸國に於て人を以て一種の裝飾品と爲すが如きい即ち其一例なりと申す可し例へば支那の戰國時代に孟嘗、平原、春申、信陵の諸君い孰れも食客三千人あり食客幕賓を以て一時の豪と誇るの器械と爲ま越王勾踐臭を破て歸る、宮女花の如く春殿に滿りて宮女の華やかに多きと以て宮殿の美觀を添ふるの裝飾と爲したり其後漢唐の時代にも宮女三千などの文字と見ると多く近くと昨年死去したる支那の豪商胡雪巖れ盛時にと侍妾六十人を有したりと云へど三千の宮女、六十の侍妾、初より實際の用目的とせしに非ず唯人間と器械として之を裝飾品に供しさる者にして此場合にと美人の美い美玉の美と恰かも其用を均うしたる者なり又我封建時代には諸藩の大名其供連同勢の盛なるを戒ひ十萬石以上と領する諸侯の行列は同勢概ね七八百人に下らず先箱、立傘、大傘、打物、袋槍、引馬、夾箱、籠長持等の儀仗あり先驅には小人、貧、小十人等あり藩主の駕籠の左右及び其後列には馬廻、小姓、小納戸、目附、使番、黒鍬頭、徒目附、醫師、茶道坊主等の隊と爲すあり之を望んで甚ざ美觀なりと雖ども此多數の同勢は果しく何の用と爲すや沿道警固の爲めなりと云はんか德川時代太平の世に大名の行列を擬するもの亦とも思はれず「何事ぞ花見る人の長刀」とは太平興花れ客が慶に大刀を挾んで嚴めき見れ扮裝をるを嘲りたるものならんかれども春風嫋々枝も鳴さぬ世の中に大名の行列彼ぎゞ如く壯嚴なりし所謂長刀、觀花の類に過ぎず又各藩主の間にても夫れ〳〵の役目に應ぎて供人を召し連るゝ多少あり供人の多寡に因て其役目を區別すると帽子の筋の多少に因て今の巡査の等級と區別するに等ぎ差き入りさる次第にころあれ扨封建制度の破滅と同時に此等の陋習も亦稍消滅ぎたるが如くなれども此陋習たるや社會微妙の部分までに浸潤ぎ冠婚葬祭宴樂游戲の事に於て今尚之と洗濯ぎ去ると能はざ甚だしきい經濟商賣れ部分とも浸ず所あると見るべし例へば日本の商店にては番頭小僧の數の多くして何と云へば賑々しきを貴び番頭は火鉢を抱へて店の端近く防禦線を張り小僧は後陣ぎ差控えて以て其使役に供す客來れば番頭防禦線の處にて之を接ぎ小僧は番頭の命を聞て一々庫の貨物と持ち出し番頭小僧の數凡そ三分二を減ずるも尚綿と群犬の遠吠の如く貨物持運びの人、紛々相旁午して店中の雜沓極まれりと云ふ可し今若し日本の商店を西洋風に改造し從來の坐賣法を廢ぎて立賣法と爲し店の体裁と今の動工場風に改め客來れば番頭自から之と貨物の巢窟に案内し都て客は自撰に任せしめば今の日本の大店ぎては番頭小僧の數凡そ三分二を減ずるも尚綿ぎて餘裕あるべぎ即ち日本の商店ぎて彼の坐賣法と守るが爲ぎ全國を通じて無用の小僧番頭と强て有用の物と爲す其幾千萬人なるぎ知らず實に不經濟の極度なれ共日本の商店にては番頭小僧の多犯と以て一種の裝飾と爲すが故に或は不經濟と知りつゝ之を改ぎざるの趣もあるべし斯ゝる事の始末ぎて古來我國には人を以て裝飾品と爲すの風習ありしも當初此風習の萌起したるは社會勞力の供給、需要ぎ過ぎ安給金を以て奉公するもの多かりしが故ならん人多くして業少ぎく一人の仕事と二人ぎ分ち又之を三人ぎ分ち果てい此人を以て一種の裝飾品と爲ぎ至る、國の經濟に於て其宜を得たるものと云ふ可ぎず勞力は一種の貨物ぎり國に此貨物多けれゞ大ぎ之と輸出して可ぎり目下北米合衆國ぎては事業多くして勞力少ぎく人と要ぎると甚ざ切なり且近來非支那人の氣風燭に之と放逐するの勢あり吾れ取て之れぎ代る可しとは正しく今日の事にして勞力低廉なる我國の人民は其勞力を櫃に藏すに及はぎ颯々と之と米國ぎ輸出して善き價と求む可犯ぎり今の世の中ぎ生れて勞力過剩の國に居り業と求めて得ず安給金を以て其勞を致し果ては其身を以て一種の裝飾品に供ぎるが如き人々れ私より云へば不面目に非ずや、一國れ公より云へば不經濟に非ずや、我輩は我國の人民ゲ其過剩の勞力と提げて大廣にも他國へ押し渡り勞力低廉より生ぎたる彼の人を以て裝飾品と爲すの風習と遂かて之れと爾ぎ又急ぎ國の爲め又急ぎ望む

報

官

○陸軍用電信ニ係ル妨害者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治十九年四月廿日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第二十一號

明治十八年五月第八號布告電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第七十一條ハ軍用電信ニ亦之ヲ適用ス

軍用電信事務ヲ奉スル者電信條例第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シタルトキハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ又電報ノ旨意ヲ漏泄シタルトキハ電信條例第六十八條第二項ニ依リ處斷ス

電信條例第五十八條第六十二條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○遞信省令第六號

地方ニ便宜郵便受取所ヲ置キ貨幣封入郵便ノ外郵便物ノ受付及郵便切手賣下ノ事務ヲ取扱ハシメ又驛遞貯金受拂ノ事務ヲ取扱ハシム

一等二等郵便局區内須要ノ場所ニ郵便支局ヲ置キ本局ノ事務ヲ分掌セシム

明治十九年四月廿二日　遞信大臣榎本武揚

○河瀨公使謁見　英國女皇は去月五日バキムハム王宮に於て朝春式を開かきさるに由り河瀨特命全權公使は夫人及書記官大山綱介書記生中田敬義幷ぎ目下同地滯在の侍從藤波言忠と從へ參內謁見せり

○辭令

大藏省參事官　山崎直胤
年俸五百圓下賜（四月二十日大藏省）

參謀本部陸軍部測量局三角測量課長陸軍工兵少佐　田坂虎之助
本初子午線幷に計時法審査委員被仰付（三月二十九日陸軍省）

陸軍一等軍吏　澤本良樹

補姫路營所計官（四月十七日同）

○軍艦發着　佛國軍艦チユレン號及ローラン號ぎ去る七日清國上海より長崎港に來着し同シキット號は同十四日魯領浦潮港に向ひ出發又同旗艦ウラヂミルモノマツ號は同日各港視察のため長崎港を抜錨せり（長崎縣報告）

○大坂堺間汽車　大坂難波驛及堺大和川驛等の間を往復ぎる鐵道汽車の本年一月より同三月ぎ至る迄に係る乘客人員三十五萬一千七百八十四人にして此の賃金は一萬二千八百五十二圓五十八錢五厘ぎり又發車度數は從來一晝夜二十五回なりしぎ去る一日より三回ぎ增して二十八回發車ぎるとぎゝなせり（大坂府報告）

（以上一件本年四月二十二日官報）

雜報

○鹿兒島通信　四月十三日發

先ぎ電音を以て報道せぎ通り渡邊縣令は去る九日歸縣したるが近々縣廳の改革あるべぎと人々言合へり○當地共同競馬會社にては年に兩季の興行をおし本年は來る二十四五日の兩日に春期競馬を執行ぎる筈なりぎが有栖川三品親王れ御來鹿に付御覽に供する爲ぎ右日取と來る十七十八の兩日に繰上ぎ例年よりも一層盛大に執行する由ぎて既に昨日より磯御殿の下練兵場跡に機舗等取設ぎ着手せり○當縣立病院の入院患者い是まで兎角少おかりしぎ先頃小廣院長の來庭後は入院患者續々增加ぎ既ぎ百餘名の多數に至りたれば從來の病室にて い手狹とおりたれぎ昨日より俄ぎ病室の增築ぎ着手したり○當裁判所にて い去月廿七日より同廿九日まで代言試驗ぎ執行せしに本年は例年に比すれぎ受驗者半數程なりぎいふ○當裁判所長鳥居直樹氏ぎ判事會議に出席の爲め來る廿四五日の頃當地ぎ出發し上京の途に就き又本縣警部長今井兼善氏も來る廿日頃出發上京するぎの事あり

○佛學校設立　辻新次、山崎直胤、長田銈太郎等諸氏が主唱にて一の佛學專門學校、僧侶の司教等ぎりて明の程の設備門講義室に環備より聯合會より日暮里の修合會の盛宴ぎ開

○演町川開盛　昨今全く開通し筋ぎ架設を可き井橋は去月孰ぎ事に着手たり

Like by lilies
Mary a one
He happens to me
left with grass, they
learer heads big
learer ぎ稻の穂ぎ
かへり居ぎ

○今日の綠日　神社、兩國回向天、品川驛、新川にて麻布一本松、

寄

○西洋流の心得　田の素塞貧ぎ爲ぎ
やうぎ致たい
實ぎ日本服は風
い其ぎのいろ
やめて洋服ぎ
ツぎ云ぎ
るぎき
語ぎ覺ぎ
ぎれ思ぎ
いぎ〳〵
ぎで

○婦人の束髮　れたる狂瀾生氏
得共日本流の髮
我等男子の腕前
て互に結約し
妻を選ぶに自分
日の日本ぎ立て
整ぎ計らんぎ
て日本流の髮は
至るべぎ諸君如

○蠶卵紙　ぎり昨年養蠶の
ぎめたるは重
の素ぎある種紙
試驗ぎ遂ぎ該紙
蠶種製造れ各地
も未ぎ其功ぎ奏
今此の欠點ぎ洗
同業組合ぎ立て
遂ぎて之れぎ奪
ぎ其過剩の勞力ぎ提げて大廣にも他國へ押し渡り勞力
低廉ぎり生ぎたる彼の人ぎ以て裝飾品ぎ爲すの風習ぎ
今日只今我國ぎり一掃ぎるに至らんぎを希望するぎり

時事新報

○太陰曆　時ぎりぎ云ぎ
ぎて不都合千萬
甚しきは三世相
鑒ぎか金神祭ぎ